

「一連のヘイトスピーチ問題を通じて感じられたことを教えて
下さい」

平成 28 年 6 月 14 日

●清瀬航輝さんからの質問

議員、初めまして。有田議員をきっかけに、自民党支持者ではありませんが、ヘイトスピーチにおける議員のご活動やご発言、それを通じて、互いの立場の違いを乗り越えて一つの問題の解決に立ち向かう、そうした人間の生き方に触れ、嬉しく思った者です。そうした観点から、議員は一連のヘイトスピーチ問題を通じて、何かしら思われたこと、感じられたことなど、宜しければ教えて下さい。私は今回の一件での議員の姿勢を知り、自民党という政党への印象が少しだけ変わり、少しではありますが、胸のすく思いがしました。ヘイトスピーチ問題での議員の並々ならぬご尽力に、いち有権者、日本国民として心より感謝致します。ありがとうございました。

●西田昌司の答え

清瀬さんのこの質問は一服の清涼剤となりますし、私も大変に嬉しく思います。

清瀬さんはよく理解されているのですが、いわゆるヘイトスピーチ解消法に対する質問・意見はほとんどが批判的な内容ですし、私の発言に耳を貸そうともせずに私の言わんとするところを全く理解していません。「『朝鮮人は出ていけ』は駄目なのに、カウンター側が中指を立てて『ヘイト豚死ね』と叫ぶのは許されるのか?」「米兵に対して『死ね』と言って車を襲撃するのは許されるのか?」といった抗議的な質問も来ていますが、そのような行為が許されるはずがないのは言うまでもありません。ヘイトスピーチ解消法を批判している人は法を勝手に解釈して興奮しているのですが、もっと冷静に

考えてもらいたいのです。

ヘイトスピーチ解消法が言論弾圧法だとの批判がありますが、ヘイトスピーチを法で規制しようとするとうヘイトスピーチをいかに定義するかという難題に直面しますし、それゆえに言論弾圧につながりかねないので私は法規制には反対してきました。ましてや罰則を設けるなどは絶対にあってはならないと私は何度も説明しています。参議員法務委員会の議論の中で、民進党や共産党の議員から「差別の禁止」を盛り込むべきとの意見もありましたが、そうしてしまうと「ヘイトスピーチは違法」との解釈が成立してしまっでこれもまた言論弾圧につながりかねませんから今回そのような法律にはしておりません。

参議員法務委員会の議事録や YouTube 動画を見ていただくと、私が言論の自由を守ることに對していかに細心の注意を払って答弁しているかがわかると思います。ヘイトスピーチは法規制すべきとの野党側の意見に対しては、そういった法規制をしてしまうとかつての治安維持法のようなとんでもない言論弾圧になりかねないときちんと反論しています。ヘイトスピーチ解消法を批判する前に、議事録や動画で私が何を言わんとしているか、その真意を是非とも理解していただきたく思います。私は参議員法務委員会でかなりしっかりとした議論ができたと思っていますし、野党の先生方とは立場は違えども共通の問題意識があるとも感じました。

何人も思想・信条の自由が認められていますし、そのような権利を法律で規制すべきではありませんが、だからといって公の場で拡声器を使って何を言ってもよいということにはなりませんし、モラルが問われるのは当然です。私はヘイトスピーチをやっている人に「あなたがやっていることを、逆にあなたがされたらどういった気持ちになりますか」と問いたいですし、「あなたの行動を、そこにたまたま通りがかった人が目にしたらどう思いますか」と考えていただきたいのです。他人を口汚く罵るヘイトスピーチと呼ばれる行為は、された人が不快な思いをするだけでなく、それを目にした人も不快になりますし、聞くに堪えない単なる暴力でしかありません。

冷静に考えればヘイトスピーチのような行為は人として恥すべき行為だというのは簡単にわかるはずなのですが、ヘイトスピーチをやっている人は自らを愛国者だと勘違いして自らの言動を省みることもなく、誰かが彼らの行き過ぎた言動を咎めようものなら逆に相手を売国奴とレッテル貼りする始末です。愛国者を自称する彼らの行動が日本人の値打ちを著しく下げているということに彼らは気が付いていないのです。人種にかかわらずお互いが思いやりを持って接するという当たり前の感覚、これは日本人にとって一番大事な精神的支柱となる考えだと思いますが、こういった感覚が欠如しているのではと思わざるを得ません。

もちろん、ヘイトスピーチをやっている人の問題意識、例えば北朝鮮の日本人拉致や核開発といった問題についての彼らの問題意識それ自体は正当ですし、そういった問題に対して抗議したり発言することは全く自由であります。しかし、拉致や核開発に全く関係のない、地域に溶け込んで平穏に暮らしている在日韓国・朝鮮人の集住地区に押しかけて「日本から出ていけ」などと叫ぶのは筋違いです。

人間は言葉によって議論をする中で、自分の誤りに気付いたり、あるいは相手に間違いを気付かせたりしながら、お互いに成長していくものです。「広ク会議ヲ興シ万機公論ニ決スベシ」と『五箇条の御誓文』が説くように、政治においては議論をすることが非常に大事であります。ヘイトスピーチに関しては私も国会で丁寧な議論をしたつもりですが、私の話に全く耳を貸さずに一方的に批判する人が保守と呼ばれる層に意外と多くおられることは今回非常に残念に思いました。

物事を自分の枠内でだけで考えて全体像が見なくなって、相手の立場も考えずに自分の立場からの見方で物事を進めてしまっただけでは議論にもなりませんし、これは日本人の悪いところでもあると思うのです。「広ク会議ヲ興シ万機公論ニ決スベシ」の精神は、言論は規制されずに自由にされるべきであるということですが、それと同時に、議論は公論であるべきということでもあります。他社への憎悪といった私的な感情を世間に晒すヘイトスピーチと呼

ばれる行為は公論ではなく私論であり、日本の良き伝統からは外れた恥ずべき振る舞いであるということを是非とも理解してください。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>